

令和6年度 施策評価シート

基本目標		区民と区が協働で「すみだ」をつくる
政策	530	すべての人々が多様性を認め合い、人権を尊重する共生社会をつくる
施策	533	国際理解を深め、平和への意識を高める
施策の目標	すべての区民が世界平和の大切さを理解し、国際交流の重要性を認識するとともに、さまざまな国の各都市との間で、文化、教育、スポーツ等の幅広い分野にわたって、友好交流を深めています。	

1 基本計画における成果指標の状況

指 標 名	「地域で平和の重要性や戦争体験を語り継ぐことが重要だ」と思う区民の割合									
	基準年(H28)	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
目標	91.6				95.0					100
実績	91.6				92.2					
指 標 名	過去1年間に外国人とコミュニケーションと行う機会があった」区民の割合(%)									
	基準年(H28)	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
目標	44.8				55.0					65.0
実績	44.8				26.3					

2 目標と現状(実績)についての分析及び総事業費推移

指標の推移・施策の課題や問題点について記述	総事業費推移(千円)	
・平和メッセージ事業は、区民が広く参加できる事業であり、特に「平和のオブジェ」・「平和メッセージ」については、新聞その他のメディアに必ず取り上げられるなど、区内外から一定の評価を受けている。 ・海外諸都市との交流については、民間交流を活発化させることが大きな課題となっている。	R3	3,198
	R4	4,556
	R5	4,642

3 施策の評価及び判断理由

評価	理由
B	一定の目的は達成されている。引き続き海外諸都市との交流促進など、新たな取組を行っていく。

4 今後の施策の運営方針

評価結果	施策の戦略的方向性
	(1) 優先的に資源投入を図る。
○	(2) 現状維持とする。
	(3) 現状維持だが、より効率的な運営を図る。
	(4) 資源投入の縮小を図る。
【上記の判断理由】	
・平和メッセージ事業については、引き続き区内外から高い評価がなされるよう実施していく。 ・海外との交流については、令和5年7月4年ぶりに日韓サッカー交流を再開。10月のすみだまつり・こどもまつりでホストタウン交流事業として、ボリビアの音楽事業を体育館ステージで実施した。	
【今後の具体的な方針】	
・平和メッセージ事業については、企画・内容に更なる工夫を凝らし、変化を持たせながら本事業の魅力をもっと高め、実施していく。 ・海外都市と着実に友好関係を進展させていくほか、オリンピックレガシーを継承したパリ市7区及びボリビア多民族国との交流を推進する。	

5 この施策に係る事務事業（重要度・貢献度順）

番号	事務事業名	歳 出 決算額 (千円)	人コスト (千円)	歳 出 総 額 (千円)	目的に対する指標	直近の評価内容
					年度目標値	評価結果
					年度実績値	評価対象年度
1	自主企画イベント(平和メッセージ)事業	3,024	4,566	7,590	200	現状維持
					150	令和5年度
2	海外諸都市との交流推進事業	1,618	5,107	6,725	2	現状維持
					1	令和5年度
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						

施 策	策	533	国際理解を深め、平和への意識を高める				部内優先順位
事 業 名	28万人の平和メッセージ事業						1
目 的	「墨田区平和福祉都市づくり宣言」(平成元年1月11日 告示3号)に基づき、平和を祈念する事業を行う。						主管課・係（担当）
							文化芸術振興課文化行事担当 03 - 5608 - 6181(内5454)
対 象 者	区内外すべての人々						
根 拠 法 令	なし						
関 連 計 画							
実 施 基 準	区独自基準	実施方法	直営	人員体制・委託先	常勤職員3人、会計年度任用職員1人		
事 業 内 容	3月10日に合わせ、区役所1階アトリウムにおいて、折り鶴による平和のオブジェ制作・展示、著名人等の平和メッセージの展示、平和祈念コンサート(親日本フィルハーモニー交響楽団の協力)を行う。						
経 過	開始年度	平成3年度			終了予定		
	・平成16年度より区民人口が23万人に達したため、事業名を改めた。 ・平成19年度より区民人口が24万人に達したため、事業名を改めた。 ・平成22年度より区民人口が25万人に達したため、事業名を改めた。 ・平成27年度より区民人口が26万人に達したため、事業名を改めた。 ・平成30年度より区民人口が27万人に達したため、事業名を改めた。 ・令和元年度から折鶴再生粘土を作成 ・令和4年度より区民人口が28万人に達したため、事業名を改めた。						
議 会 質 問 の 状 況	(令和2年10月22日決算特別委員会) ・平和のオブジェはいつまでちばてつや先生の絵を使うことができるのか。 →オリンピック・パラリンピックまでで、延期に伴う使用延長の了解も得た。						
そ の 他 特 記 事 項							

予算・決算額推移(単位:千円)		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
予算現額(事業費)		3,068	2,973	2,929	2,948	3,127	3,448
A.決算額(令和6年度は見込み)		2,991	2,656	2,636	2,922	3,024	3,448
財 源	国						
	都						
	その他						
一般財源		2,991	2,656	2,636	2,922	3,024	3,448
執行率(%)		97.5%	89.3%	90.0%	99.1%	96.7%	100.0%
B.人コスト		5,243	4,675	4,662	4,371	4,566	
総事業決算額(A+B)		8,234	7,331	7,298	7,293	7,590	
予算書P(令和6年度)	P122 - 上段 - 4-2	執行実績報告書P(令和5年度)				56	

予算・決算の内訳（単位：千円）								
令和４年度（決算）			令和５年度（決算）			令和６年度（予算）		
節	概要	金額	節	概要	金額	節	概要	金額
報償費	平和祈念コンサート司会謝礼	10	報償費	平和祈念コンサート司会謝礼	10	報償費	平和祈念コンサート司会謝礼	10
需用費	折り紙の購入等	125	需用費	折り紙の購入等	201	需用費	折り紙の購入等	276
役務費	平和メッセージ協力依頼等郵送	26	役務費	平和メッセージ協力依頼等郵送	33	役務費	平和メッセージ協力依頼等郵送	68
委託料	オブジェ制作一式等	2,761	委託料	オブジェ制作一式等	2,780	委託料	オブジェ制作一式等	3,094

事業の成果	手段に対する指標 (活動指標)	指 標	平和メッセージ応募者数				単 位	人
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1
		1,525	R7	目標	1,300	1,325	1,350	1,375
				実績	1,306	967	864	913
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	1,400	1,425	1,450	1,475	1,500	1,525
		実績	924	755	873	1,010		
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	平和メッセージは、例年、各界著名人をはじめ、区内外から多数の応募がある。これらを展示することで墨田区に訪れた方々の、平和意識の向上につながると考えられるため。							
	目的に対する指標 (成果指標)	指 標	平和祈念コンサートの来場者数				単 位	人
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1
		200	R7	目標	180	190	200	200
				実績	200	120	120	-
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	200	200	200	200	200	200
		実績	200	100	120	150		
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	毎年3月に行う平和祈念コンサートは、平和のオブジェのお披露目も含まれ、来場者数が事業の趣旨の浸透度の指標となると考えられるため。							

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
現状維持	本事業は、本区における「墨田平和福祉都市づくり宣言」を具現化した事業であり、毎年新聞紙上でも紹介されるなど、本区の平和福祉都市づくり実現に向けて大きな役割を担っている。また、折り鶴やオブジェの制作・平和メッセージには多くの区民が積極的に参画していることから、この思いを区内外に継続して発信していく必要がある。

課題・問題点
引き続き、企画・内容に工夫を凝らし、事業のマンネリ化を防ぐため、時流に合ったオブジェテーマを設定する等の変化を持たせながら本事業の魅力を更に高め、実施していく。

施 策	533	国際理解を深め、平和への意識を高める				部内優先順位
事 業 名	海外諸都市との交流推進経費					2
目 的	区民を主体とした交流事業を支援することを通じ、区民の国際理解を深める。					主管課・係（担当）
						文化芸術振興課 都市交流・国際担当
						03-5608-1459
対 象 者	海外諸都市 国際交流を行う区民					
根 拠 法 令 関 連 計 画						
実 施 基 準	区独自基準	実施方法	直営	人員体制・委託先	常勤職員2	
事 業 内 容	平成9年12月に友好協定を締結した中華人民共和国北京市石景山区及び平成15年10月に友好協定を締結した大韓民国ソウル市西大門区との交流を推進する。また、パリ市7区やボリビア多民族国をはじめ、他の海外諸都市との交流や視察受け入れ等を行う。併せて、区民を主体とした国際交流を行う団体を支援し、区内における国際交流活動を推進する。					
経 過	開始年度	平成9年			終了予定	
	北京市石景山区とは行政交流が主体となっている。令和4年度は、友好交流・協力協定締結25周年記念事業をオンラインで実施した。 ソウル特別市西大門区とは民間交流が主体となっており、毎年墨田区サッカー協会が主催で相互の区を訪問し、サッカー交流をしている。令和2年度から新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止していたが、令和5年度は4年ぶりに再開した。 パリ市7区とは、平成24年度より文化交流をしている。令和4年度は、パリ市7区役所内において、東京2020大会における墨田区の取組や、墨田区を紹介するパネル展を実施した。 東京2020大会のホストタウンであるボリビア多民族国とは、在日ボリビア大使館と継続的な関係を構築しつつ、令和4年度からすみだまつり・こどもまつりで、ボリビアの文化を紹介する事業を実施し、東京2020大会のレガシーを継承する取り組みを行っている。					
議 会 質 問 の 状 況	令和4年9月(定例会) ・今後の海外友好都市とのSDGsを通じた取組について (答弁):今年度はパリ7区において、東京2020大会に関する本区の取組や日本の文化などを紹介する企画展が開催され、墨田区民のビデオレターで、パリ大会に向けての期待などを伝えた。また、ボリビア大使館とは情報交換を続けており、北京市石景山区やソウル特別市西大門区とは、それぞれオンラインでの交流を検討している。今後も国内外の交流・連携の場を広げていく。					
そ の 他 特 記 事 項	(他区の状況・年間スケジュール・関連部署等) 令和6年7月:墨田区交流都市紹介展(パネル展)の実施(場所:区役所1階アトリウム) 令和6年7月:日韓サッカー交流(墨田区サッカー協会主催) 令和6年8月:西大門区との協定締結20周年を記念し、区長を代表とする訪問団が訪韓予定(2泊3日) 令和6年10月:ボリビアの文化等を区民へ紹介する交流事業(場所:すみだまつり・こどもまつり) 令和6年11月:パリ7区企画展(場所:すみだ北斎美術館)					

予算・決算額推移(単位:千円)		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
予算現額(事業費)		5,274	400	2,081	2,066	1,782	7,697
A.決算額(令和6年度は見込み)		4,727	155	562	1,634	1,618	7,697
財 源	国						
	都						
	その他		99				
一般財源		4,727	56	562	1,634	1,618	7,697
執行率(%)		89.6%	38.8%	27.0%	79.1%	90.8%	100.0%
B.人コスト		5,243	5,293	5,277	4,907	5,107	
総事業決算額(A+B)		9,970	5,448	5,839	6,541	6,725	
予算書P(令和6年度)		P121 3-2		執行実績報告書P(令和5年度)		55	

予算・決算の内訳（単位：千円）								
令和4年度（決算）			令和5年度（決算）			令和6年度（予算）		
節	概要	金額	節	概要	金額	節	概要	金額
報償費	報償金等	20	報償費	報償金等	19	報償費	報償金等	146
旅費	管外旅費等	0	旅費	特別旅費	27	旅費	管外旅費等	7
需用費	食糧費等	20	需用費	消耗品費	107	旅費	特別旅費	1,134
役務費	通信運搬料	9	役務費	通信運搬料	13	需用費	食糧費等	269
委託料	その他	1,586	委託料	その他	1,141	需用費	消耗品費	288
使用料及び賃借料	使用料及び賃借料	0	使用料及び賃借料	使用料及び賃借料	13	役務費	通信運搬料	20
負担金補助及び交付金	補助及び交付金	0	負担金補助及び交付金	補助及び交付金	300	委託料	その他	5,122
						使用料及び賃借料	使用料及び賃借料	171
						負担金補助及び交付金	補助及び交付金	540

事業の成果	手段に対する指標 (活動指標)	指 標	海外友好都市等の行政交流回数 (文化芸術振興課所管事業のみ)				単 位	回
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1
				目標	3	3	3	3
				実績	3	3	3	3
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	3	4	4	4	4	4
		実績	3	3	4	4		
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	海外友好都市との交流は、政治や社会情勢の影響を受けやすく、継続することが重要である。そのため、民間交流ができなかった場合でも、行政交流は続けていく必要がある。							
	目的に対する指標 (成果指標)	指 標	民間同士の交流回数				単 位	回
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1
		3	R7	目標	1	1	1	1
				実績	1	1	1	1
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	2	2	2	2	2	3
		実績	-	-	-	1		
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	友好都市協定を基礎として、民間交流が継続的に行われることが、本事業の成果として重要であるため。							

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
現状維持	年度協定締結20周年を迎えた西大門区との交流を更に深めるため、今年度は、区長を代表とする公式訪問を予定している。また、今年度はパリ市7区との文化交流事業を予定しており、その他の都市についても、引き続き交流を継続していく。

課題・問題点
新型コロナウイルス感染症の収束が見込まれる中、徐々に対面での交流が再開できるようになってきた。今後は近年活用したオンラインの利用等なども含め、社会変化に柔軟に対応し、継続的な交流を実施する事が課題である。

補助金 名 称	墨田区国際交流事業助成金			主管課・係（担当）	
根 拠 法 令	墨田区国際交流事業助成金交付要綱			文化芸術振興課 都市交流・国際担当	
補 助 概 要	海外友好都市との交流事業を企画・実施する団体に対し、経費の一部を助成する。			03-5608-1459	
目 的	区民を主体とした交流事業を支援することを通じ、区民の国際理解を深まっている。				
対 象	墨田区民が主体となって活動している団体				
基 準	区独自基準				
補 助 条 件	次の各号に掲げるすべての要件を満たす団体 (1) 構成員の2分の1以上が墨田区民であり、かつ、墨田区民が主体となって活動していること。 (2) 営利活動を目的としていないこと。 (3) 政治活動又は宗教活動を行っていないこと。 (4) 規約又は会則を備え、民主的な運営が行われていること。 (5) その他区長が不適当と認める行為を行っていないこと。				
経 過	開始年度	平成4年度	終了予定		
	平成4年の「墨田区国際化交流推進検討委員会答申」を受け、助成金創設 近年は、韓国ソウル特別市西大門区と少年サッカー交流を行う、墨田区サッカー協会に対し、助成金を交付している。				
議 会 質 問 の 状 況	令和4年9月（定例会） ・今後の海外友好都市とのSDGsを通じた取組について （答弁）：今年度はパリ7区において、東京2020大会に関する本区の取組や日本の文化などを紹介する企画展が開催され、墨田区民のビデオレターで、パリ大会に向けての期待などを伝えた。また、ボリビア大使館とは情報交換を続けており、北京市石景山区やソウル特別市西大門区とは、それぞれオンラインでの交流を検討している。今後も国内外の交流・連携の場を広げていく。				
そ の 他 特 記 事 項	（他区の状況・年間スケジュール・関連部署等） 令和6年7月：日韓サッカー交流（墨田区サッカー協会主催）				

予算・決算額推移（千円）		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
予算額（事業費）		300	0	0	0	300	300
決算額（令和6年度は見込み）		300	0	0	0	300	300
財源	国						
	都						
	その他						
一般財源		300	0	0	0	300	300
執行率（％）		100.0%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	100.0%	100.0%

補助金の成果	手段に対する指標 (活動指標)	指標					単位	
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
				目標				
				実績				
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標						
		実績						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	目的に対する指標 (成果指標)	指標	民間同士の交流				単位	回
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		3	R7	目標	1	1	1	1
				実績	1	1	1	1
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	2	2	2	2	2	2
		実績	0	0	0	1		
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	友好都市協定を基礎として、民間交流が継続的に行われることが、本事業の成果として重要であるため。							

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
現状維持	継続的に行われている民間交流であるため、今後も実施していく方向である。

課題・問題点
民間主体の交流は、墨田区サッカー協会の交流事業のみである。 民間主体の交流を増やしていくのが今後の課題である。